

人工緑青開発秘話

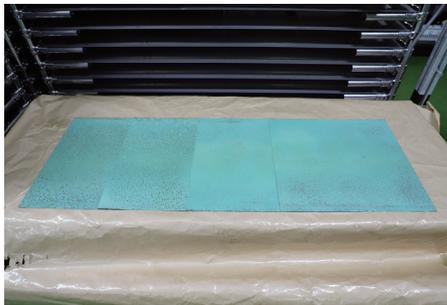
株式会社
タニタハウジングウェア



乾燥



緑青処理



加湿

タニタハウジングウェア秋田工場は、秋田県大仙市にある同社の基幹工場。同社では「雨のみちをデザインする」をコンセプトに雨といを中心とした建材メーカーだ。実はタニタハウジングウェアでは20数年間、独自で研究し続けた人工緑青生成技術がある。同社オリジナルの用語では「高速緑青生成技術」となる独自技術だ。人工緑青と一括りに言っても、緑青色に塗装する技術もこのカテゴリー内に入ってくる。しかし、同社の人工緑青は「銅の酸化物としての緑青」であることにこだわり抜いた独自技術のため、緑青生成技術という拘った名称を冠している。

2022年、ウチノ板金が和國商店として国内外に銅板折鶴などを販売していることを知り、緑青板を何枚か提供し作ってもらったのが緑青折鶴。15×10mmと小さな銅の切れ端に緑青を生成させることから始まった「折り鶴」がきっかけで、今回のカフェ「和國商店」の外装を担当した。自然な緑青であった神社の銅板屋根の廃材と、それに対をなすような様々な色味を作り出し、今回の採用に至ったのである。

同社の秋田工場内には、人工緑青

銅板のみを研究＆製作している一角がある。細かな工程などは当然ながら企業秘密だが、おおよそ工程そのものは8〜10工程があり、その肝となるのが「緑青処理」「乾燥」「加湿」などになるとのこと。

商品としての「高速生成緑青銅板」は、今回の和國商店の外壁採用だけでなく、JR九州のラグジュアリー特急「かんばち・いちろく」などでも、内装材として採用されている。



向かって左側から

・製造部部长 兼 工場長 久保田 寛氏 ・開発部 商品開発課 課長 飯島 清一氏
・製造部 製造2課 鈴木 俊介氏 ・開発部 商品開発課 関口 忠志氏